

【地域の現状・課題】

- 農林業が主産業(八女茶【玉露】)
- 星と茶をテーマに観光資源(星の文化館・茶の文化館)
- 雇用確保、飲食店が少ない(夜間)
- 人口減少により、農林業後継者不足が深刻化し、耕作放棄地が増加。
(人口 H12:3,881人→H30:2,429人)
- 観光施設等との連携ができておらず、直売所(びそん・清流)及び農産加工施設の経営が悪化
- それぞれの施設の連携が取れておらず人の動きが限定的。

【取組地域の概要】

八女市星野地区
(特定農山村、振興山村、過疎地域)

<星野地区>

- * 農家戸数
315戸
- * 農業者数
423人



【取組内容】

ヒアリング等による調査・課題整理

- 各施設等の現状分析、課題を整理するため、地域協議会をはじめ、当事業関係者へ地域資源や、現状等について専門業者によるヒアリング調査を実施し、活動計画を策定

地域の交流人口の拡大・特産品の開発

- 直売所を拠点とした農業農村体験ツアーや特産品の充実・地域の景観を活かした都市農村交流の取組や、農業の6次化に関する先進的取組みについて学習会を開催
- ・6次化商品の開発・販売を行い、地域特産品の商品を充実
- ・棚田のオーナー制度や農業農村体験など外部人材を活用した管理体制を確立し、直売所や周辺観光施設と連携したツアーを企画



先進的取組について学習会の開催

直売所・農産加工施設の経営改善

- 「びそん」「清流」「星の里」の各施設の運営状況について設立の趣旨や背景、事業内容、商品、スタッフ、運営における課題等を整理・分析し、経営改善手法を検討し、経営改善計画を策定

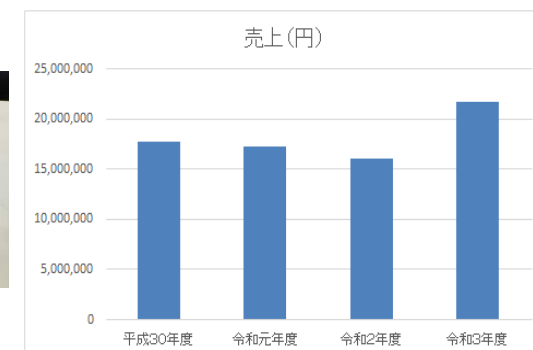
成果・効果

「びそん」の経営改善

既存商品のパッケージ更新
また、月に1度の「星のふる里市」の開催により経営の改善が図られた。



既存商品のパッケージ更新



(取組のプロセス)

きっかけ

人口流出、高齢化、担い手不足により農業の維持への危機感

R1.8月 大雨

加工施設「星の里」開設 (S64)

農産物の生産、加工、販売を促進し、利用者の所得向上を図る。

物産販売所「清流」開業 (H5)

中山間地農産物等の普及販売を促進し、中山間地農業の振興と活性化を図る。

直売所組合「びそん」開業 (H21)

中山間地農産物を問と普及し、中山間地農業の活性化を図る。

Step 1 (H27~)

星野地域協議会の設立

○直売所を拠点として、営農、6次産業化、定住促進、観光交流等に取り組み、中山間地域の活性化を目指し、地域の振興を図ることを目的として設立。

都市との交流

農園体験・収穫体験を実施

Step 2 (R1)

意識改革講演会

○地域の景観を活かした都市農村交流の取組や、農業の6次化に関する先進的取組みについて学習会を開催

Step 3 (R1)

資源調査ワークショップ

○村内4地区にて星野の資源調査についてワークショップを開催

Step 4 (R2)

消費者体験ツアー

○専門家4名による星野モニターツアーを開催した。現地視察は、茶の実油の原料となる荒廃した茶園、農産物直売所「おばしゃんの店清流」「びそん」をはじめ棚田を巡ってもらった。

中山間地域農業・農村振興支援事業 活動計画 (R1~)

- ①専門業者との調査・計画協議
- ②直売所の経営安定に係る協議
- ③新商品開発
- ④観光、イベント等の情報発信

専門人材の活用

- ・ワークショップ開催による地域の意見取りまとめ
- ・先進地視察
- ・学習会の開催

舞台



専門人材：緒方 英雄 氏
株式会社シーズ総合政策研究所 研究顧問

将来に向けて

- 段階的に「びそん」を核とした地域の産業再生・活性化を目指す
- ・「びそん」への出荷ルールの改善及び集荷体制の検討により地域住民の収益・意欲野向上
- ・星野の一体的な魅力発信による集客向上
- ・買い物弱者を支援し、地域へ貢献

今後の展望

Step 5 (R3)

新たな活性化に向けた活動計画の策定について

○今後の星野地域協議会のあり方について検討

交流人口増加に向けた星野ブランド化の方向性について

○交流人口増加に向けた星野ブランド化の方向性について

- ・役割分担を明確にした仕組みづくりを検討

○星野の一体感を醸成するためには

- ・財団による地域内情報の共有化の仕組みづくりの検討 (SNSの検討)

既存商品のブラッシュアップ

- 「星ノ甘茶・茶の香ふりかけ・お茶葉の佃煮」のパッケージを更新
- 新商品としてくろもじ香茶を開発した